

異見肝要候。其國(織田)能州歷面之衆不殘在陣候。其外何茂同心候。御分別此時候。委儀山中久藏可被申候。御存之儀候間、無御隔心御返答專一候。兎角不及御思惟、遅々候者自然御後悔之儀不可有其詮候歟。早速ニ可有御馳走候。畢竟御兩所不可過御才覺候。御身上之儀、公儀(衆田勝家)修理亮丈夫ニ請乞被申候。兩口御警固之儀被仰付上者、從是方被申上通可令首尾候。無二之御覺悟を以、可被引切事此節候。爲兩三人相意得可申旨候間如此候。旁追々可申述候。恐々謹言。

天正八年  
閏三月廿六日

山中橋内  
長 俊  
中村閣下齋

宗 教  
佐久間玄蕃助  
盛 政

山田修理亮殿  
若林宗右衛門殿  
御宿所

閏三月三十日。織田信長、長連龍に、その河北郡木越及び羽咋郡飯山に戦捷を得たるを賞す。

【長 文書】 金澤

一六五四

去廿二日書狀、今日冊到來、具披見候。仍今度柴田修理亮賀州與郡動之儀申付差遣候處、早速合手粉骨之趣、尤以神妙。柴田同前注進候。賀州凶徒等過半討果候段、心地能候。然者木越(光福寺)落居以後、至七尾・飯山(福井縣)敵追拂得勝利候由、是又可然候。尙以萬方無由斷、調儀專一候。兼又七尾之儀、申子細有之由候。能々相分注進簡要候。隨様子可申出候。委細堀久太郎可申候也。

天正八年  
閏三月卅日

信 長 在印  
長九郎左衛門尉殿

四月朔日。本願寺顯如、能美郡の一揆鈴木出羽守に、その織田信長と和睦したることを報す。

【林西寺文書】 能美郡

一六五五

態染筆候。仍信長与和平之儀、舊冬已來爲叡慮被仰出

惣無事之通相濟、御請申候。隨而能美・江沼兩郡、如前々可返付之由候。當分者箭留申候。就中今度柴田人數亂入、至金澤邊放火由候。縱一旦其分ニ候共、可申届條、國之儀者一味同心申合、此度別而粉骨肝要候。(山内庄)當庄之儀、每度抽而馳走神妙候。彌頼入計候。於様子者、侍從法橋(七里)三川(下四郎)法橋兩方へ申下候。委曲刑部卿法眼可令演說候也。穴賢々々。

天正八年  
卯月一日

顯 如 在判

鈴木出羽守どのへ  
山内惣中へ

四月二日。本願寺教如、加賀四郡に、その織田信長と和せざることを報じて馳走を求む。

【本願寺文書】 山城

一六五六

急度染筆候。今度當寺信長と一和之義、爲叡慮被相調、已近日當寺彼方へ可被相渡分議定候間、御門主雜賀(顯如)へ御退出分ニ候。然者予思立候趣は、數代聖人御座所を彼輩に相渡し、永々法敵之算と成果候はん事、一宗之無念歎入

候。當寺是非共に相拘、東西之味方中爲□□□□も可相助所候へば、各一味同心之衆無二當寺ニ相殘候。抑其國無正體と聞及候。是又無事ニ顯され候哉。表裏眼前之儀、無勿體計候へ共、御門主御耳に入爲體候。此度隨分當國被相靜、當寺同心ニ法敵ニ不渡之様ニ馳走候而、各當寺相拘様をも馳走候ば、予一身之満足たるべく候。且は佛法再興と可有難候。猶教行寺(叡誓)・慈敬寺(叡誓)より可被申候。穴賢々々。

天正八年  
四月二日

教 如

加州四郡中

四月三日。本願寺教如、能登の門徒に、その織田信長と和せざることを報じて馳走を求む。

【本念寺文書】 羽咋郡

一六五七

急度取向候。當寺信長一和之儀すでに相調候。さ候へば諸事表裏眼前候。就其予當寺可相拘おもひたち候。然者聖人之號門弟輩者、此度抽粉骨馳走候は、佛法再興聖人わ可爲報謝候。されば安心決定候て、稱名念佛無油